

市街地にも春の気配が・・・船橋大神宮へ

米澤理雄(船橋市)

日 時：3月5日(日) 9時30分～12時 天気：曇り

場 所：東船橋駅～船橋大神宮へ

参加者：一般 27名(女 19・男 8名)、指導員：20名

担当指導員：米澤理・林・梁川

最初は池の端公園へ。ケヤキ、クスノキ、ユリノキ、ヤマモモ、エノキなどがあるが、いずれも強剪定されてほぼ裸の枝ばかり。常緑樹もしかり。次の道祖神社には巨樹(周囲 537 cm)のイチョウがあり、チチが発達している。チチの部分は裸子植物やシダ植物などの古い時代の植物の特性で担根体(たんこんたい)という組織。場合に応じて、先端が根に変じたり、枝葉に変じたりするのだそうだ。日枝神社では千葉県の木イヌマキがご神木。ヤブニッケイが多いが、ニッケイの葉を準備してもらったので、ニッケイの葉と匂い比べする。どちらの香りも、昔懐かしいニッキの香りだ。祠の後ろに参加者が見つけたタヌキの溜め糞があった。タヌキの習性として、親、兄弟、親族が1か所のトイレを皆が使用している。何頭かのタヌキが息する証拠に、こんな街中でよく住んでいるものだなとの感想があった。弘法の井では、準備していたウメの枝の断面(断面が赤いと白い)を見せ、紅梅は断面が赤い枝を言い、白梅は断面が白い枝を言う。皆驚いていたが、赤い枝でピンクの染色した事があるとの発言があった。カワヅサクラのピンク花、ウメの白い花、サンシュユの黄色花とここだけは、春爛漫のようだ。茂呂神社は神紋がシュロ(静岡浅間神社の紋と同じ)で、至る所にキジカクシがある。アスパラガスの仲間、50～60 cmの背丈になる。本当に雉が隠れそうだ。ヒマラヤスギの球果のウツディローズを見つけ、種やきれいな姿に触る。サカキ、白椿もあり、鑑賞す。入口の門近くにセンダンがあり、実がたくさん落下していた。古布多の池(子を負ぶったとの意)が今は水が枯れているが、その場所にヒメリュウキンカとオニグルミがある。オニグルミは葉痕が羊の顔に似ていると説明。(解散後になって、オニグルミと紹介した葉痕は、センダンの幼木と分かり、反省) 東光寺にはムクロジの実があった。サポニンという物質が多量にあるため、江戸時代、洗濯に使用された。黒い実は羽根つきの羽の黒い玉に使われている。最後は、船橋大神宮だ。意富比神社(おおひじんじゃ)と言い、「延喜式」に記載がある式内社として由緒ある神社である。

船橋大神宮で今日の感想を聞いて、終了した。感想は・いろいろ教えてもらった。・街中をぐるぐる廻って覚えられないけど、また来てみたい所でした。・大神宮は車で通っていたが、良い所なので今度ゆっくり寄ってみたいとの事だった。



道祖神社のオオイチョウです



アスパラガス属のキジカクシを観る



サクラとウメの見分け方の説明